













新刊紹介

望歌 題「女」 馬上梨舟過  
清詞 題「小春」 內閣曉雪  
川柳 題「霧土」 并麗花坊演  
誌謝 十月廿五日(各題一)  
賞金 一圓半 女一圓 人半圓  
注意 一題一人三句 各題別紙  
用紙張數 難辨姓氏名附記  
京城日報社(京日文苑)の事  
其他 各地會報掲載

短歌 尾上崇壽

課題「赤」一四

◇ 吉田彌次郎(京城)  
かそちの風もつばきはる間の  
の紅きしらびに戀はつたりなり  
しにしらぎりの中のつたりなり  
さ小花すて得なりけり

秀逸 栗田口 秋水  
夕まき 駒けり 花の宵静に赤く  
爛れて日流つるかな

京城報載行

三等 山田 彌七  
「死は男の運」と愛して赤き  
引きてはあれど死は死ねず

京城報行 一ノ二

二等 吉田彌次郎  
赤き體は赤き人ゆきすなり何

[illegible]

鎮咳痰劑

一夜であまる  
せきぐすり

有販を執切

登録商標



桂屋の天壽

天壽

桂屋の天壽

社會式株藥製屋桂

鰻舞府都京

理想の家庭寶

金額

A black and white illustration of a young boy with dark hair, wearing a long-sleeved shirt and shorts, sitting on the ground and playing a trumpet. He is looking towards the right. The illustration is positioned on the left side of the page, below the title.

用品として（補物性）

# 鰐オリブ石鹼

本品は家庭實用石鹼として、素晴らしい評判を戴いて居ります。家庭の御徳用品として御愛用を希ひ上げます。その外に高級品として金鰐石鹼があります。

金鰐石鹼

金澤 北条 三浦 野村 外吉 商店

[illegible][illegible]

納四十の聞  
 枕れく道しよ  
 置云し  
 シン▲し  
 消化と  
 毒けし  
 仁丹黨が  
 打ちに來た  
 鐵砲に仁丹添ふ  
 獵期が來た  
 鳥が來た  
 仁丹

仁丹を  
運動に  
旅行に  
飲ルに  
人込に  
会後  
酒席に  
旅先に  
喫煙に  
無事に  
観客に

**整腸消化**  
**ビオフェル**  
**優秀なる腸疾患の治療**

用作其に並菌酸乳の氏フコニチネはシミルニフネビ  
 糖の矢嚆邦本する有に富豊を菌化糖する有を用作  
 鼓、秘便習常、兒答加腸性慢及性急（症應適）  
 炎、臟腎性慢（等弱衰經神、化硬脈動、血貧）狀症毒  
 劑錠 瓦三至乃瓦五、一日一（量用）  
 入瓦十五百四 入瓦百三 入瓦十五百 入瓦十三米粉（品販市）

元 資 發  
 町修道區東市阪大  
 店商衛兵長田武

式換社

一師は手紙に先づ寢婦を尋ねるやうになり、書いて寢婦が既か否しくなつて来る。水の變つたと時節の加減とて寢は脚氣に罹つたのであつた。

それが又尋ねるに従つて、水鏡に墨くたつて来た。縁を歩くと、寢婦の膝枕が床は、病と寢がへ弱くなつて、時々小さい石塊さへ掬いて倒れようになることもあつた。

受取つた。彼は左の腕に隠して手紙でも入つて居るかと思つたが、然ては無かつた。中から四つと折つた十数粒の松角三枚、たゞと石の土に落つた。

寢婦はそれに驚かへ、つて、平と考へてゐたが、京子に去勢の上に去勢を懸けさせると思ふ隙がはらになつて来る。そして上になつて、と眠眼を盛つて枕

運喉の残さ栗は白く時き  
 徳興が清ひと一風指撥は  
 栗原の虎は連帯で贅を負ひ  
 妙果の肥肥は手を取つて  
 試問合戦の語に栗が映ね

五客  
 面毒  
 是々  
 北番

川柳ばいこう吟社（平澤）  
 題「栗」

壺川恭平製選

人華馬島  
 さい(事務員) ▲龍山(龍崎町)の  
 家主は大概數金五ヶ町元を運ん  
 だに近所まで來て居る。本道に  
 金がかゝるとして勇進まない  
 開生) ▲マンドラを販つてび  
 る。茂なきや(本町二た敷)の  
 家の男兒が痘が張つて早く泣ま  
 るので困つて居ます。誰か良い  
 はりでもせぬか。▲龍山町より  
 (一八吉田ケカ) ▲龍山町より  
 まつた爲に、醫者は勿論其色と  
 症を治すも其病などいふ程に  
 症を治すも其病などいふ程に

見三三  
一法い  
延一な  
越

特別の技能を有する當店に御注文の御希望の方  
は形ロクの御請求を乞ふ必ず御満足の出來る  
スタイルと價額が見出す事が出來ます



京城明治町本通り

# 小林靴店

電話本局三五七番  
振替京城五九六番

[illegible]

劑  
 ン  
 三  
 劑防豫及療  
 化消粉源内腸つ且し助補を  
 ・りな劑製菌酸乳有含菌化  
 中家自性慢・便縁兒小・腸  
 等疸黃性兒管加・病尿糖・  
 錠三至乃二回一  
 入錠百五 入錠十五百 入錠十五劑錠  
 元 造 製  
 町 番 二 市 戸 神  
 所 驗 實 生 街 戸 神

彼は或日、その電燈を見せ置  
けるやうにして、鏡壁の方へ用器を行  
つた。そして京鹿の詰まてゐた  
時に、自動機が差へやうとした。こ  
ゝに、路上に居た。そこ折  
斷く誰かの小荷しのが、自動車  
を乗はして來て、一輛で居る。電  
燈の上に、折つてつて降れた。そ  
の時に載一船は、一瞬間の電燈を  
強かに降覆のあり、一瞬突けられ  
た。一時は息がつかぬかと思は  
れた。

それ聴めてゐた利子も亦  
つと一驚した。

京鹿の密機をつくつて、聴め  
たら、利子は然う思ふた。

「こんな驚しい小部屋で  
一日中目まくらせて置いて、若し  
の機嫌なり、許さぬ意なりが  
舞にでもしたら、またたきが職  
にもせぬしな、」

彼女は歸じ、現が、常々京子  
を、京子の手から、載一を  
觸つて、京子の手から載一を

お座敷知事も管票はね  
いい智恵出さそと果を  
輪 轡

人地

吾打たる皮桶き出され  
平驛の旅儀栗を頼またる

文鶴川柳秋季大合

秋夕文鶴村では左の方法に依  
て仁川柳脚大合を開催する由  
「宿題」三句廿赤淵紅短  
氏選「順」三句廿吉木充範  
選「續」十月二十六日(會場)

守 字

（雅病生） ●東都の院に聖元  
親王の病氣家親王の職への  
明詔を催められしには聖元  
親王の感傷懨懨はせられし  
に如何にこれを慰安せられし  
乎書を以てせられしかを寫  
とが出来ます（秘は心の底から  
邦太郎） ●元京の感傷懨  
懨の書に聖元親王の病氣家  
親王の職への明詔を催められ  
しに聖元親王の感傷懨懨は  
せられしに如何にこれを慰  
安せられし乎書を以てせら  
れしかを寫とが出来ます（秘  
は心の底から）

つ

氏 册

●十月十二日（元弘九年）  
旭町二丁目 木村大木殿  
（旭町二丁目）

家庭常備用  
消毒藥

後藤デンの  
芳醇の調香く  
皆様の所に  
文化生活  
を

▲薬品に、臭気なく、暗室  
に使用できる。の散布  
を容易に給ふ。……  
家庭の永久保健のため  
の。

後藤デン  
會連立

本橋式  
支社  
藤後  
日四選登八市戸社

[illegible]

おまじ

[illegible]

朝群舞す 二 仁  
 時珍監油 本編  
 50.00  
 50.00

午後 同明報  
 遊玩中の電報で、船客の呼称を拾  
 化、通り、巡警、出所へ赴てあり  
 す（みつぐ生） ●東京デパート  
 ヤー本店隣りの「ラヂオレキヤ  
 高田に譲る」府内東西町町々  
 （高田大伴）

東洋染織 大蔵 1,000  
 朝野商會 同 同  
 同 同 同

二〇三  
 二〇二  
 二〇一  
 二〇〇  
 一九九  
 一九八  
 一九七  
 一九六  
 一九五  
 一九四  
 一九三  
 一九二  
 一九一  
 一九〇  
 一八九  
 一八八  
 一八七  
 一八六  
 一八五  
 一八四  
 一八三  
 一八二  
 一八一  
 一八〇  
 一七九  
 一七八  
 一七七  
 一七六  
 一七五  
 一七四  
 一七三  
 一七二  
 一七一  
 一七〇  
 一六九  
 一六八  
 一六七  
 一六六  
 一六五  
 一六四  
 一六三  
 一六二  
 一六一  
 一六〇  
 一五九  
 一五八  
 一五七  
 一五六  
 一五五  
 一五四  
 一五三  
 一五二  
 一五一  
 一五〇  
 一四九  
 一四八  
 一四七  
 一四六  
 一四五  
 一四四  
 一四三  
 一四二  
 一四一  
 一四〇  
 一三九  
 一三八  
 一三七  
 一三六  
 一三五  
 一三四  
 一三三  
 一三二  
 一三一  
 一三〇  
 一二九  
 一二八  
 一二七  
 一二六  
 一二五  
 一二四  
 一二三  
 一二二  
 一二一  
 一二〇  
 一一九  
 一一八  
 一一七  
 一一六  
 一一五  
 一一四  
 一一三  
 一一二  
 一一一  
 一一〇  
 一〇九  
 一〇八  
 一〇七  
 一〇六  
 一〇五  
 一〇四  
 一〇三  
 一〇二  
 一〇一  
 一〇〇  
 九九  
 九八  
 九七  
 九六  
 九五  
 九四  
 九三  
 九二  
 九一  
 九〇  
 八九  
 八八  
 八七  
 八六  
 八五  
 八四  
 八三  
 八二  
 八一  
 八〇  
 七九  
 七八  
 七七  
 七六  
 七五  
 七四  
 七三  
 七二  
 七一  
 七〇  
 六九  
 六八  
 六七  
 六六  
 六五  
 六四  
 六三  
 六二  
 六一  
 六〇  
 五九  
 五八  
 五七  
 五六  
 五五  
 五四  
 五三  
 五二  
 五一  
 五〇  
 四九  
 四八  
 四七  
 四六  
 四五  
 四四  
 四三  
 四二  
 四一  
 四〇  
 三九  
 三八  
 三七  
 三六  
 三五  
 三四  
 三三  
 三二  
 三一  
 三〇  
 二九  
 二八  
 二七  
 二六  
 二五  
 二四  
 二三  
 二二  
 二一  
 二〇  
 一九  
 一八  
 一七  
 一六  
 一五  
 一四  
 一三  
 一二  
 一一  
 一〇  
 〇九  
 〇八  
 〇七  
 〇六  
 〇五  
 〇四  
 〇三  
 〇二  
 〇一  
 〇〇

大邸府前松角  
發兌 棟居酒店  
振妙京城八七〇番

六箇月 條約締結の申立をなし  
 大(龍馬) 條約締結の申立をなし  
 されし大(龍馬) 條約締結した(二冊)  
 の氣味に著し、龍馬なる自伝に  
 著するが龍馬の自伝は、餘り短











# 忠南の産米改良

道令で産米の刷新  
本農務課長談

忠南の産米改良は、忠清南道農務課長の指導の下、各郡市で進められている。道令で産米の刷新が行われ、本農務課長は、忠南の産米改良に力を入れている。忠南の産米改良は、忠清南道農務課長の指導の下、各郡市で進められている。道令で産米の刷新が行われ、本農務課長は、忠南の産米改良に力を入れている。

# 萬山登山開

鐵道速成陳情書提出  
香椎町長が野村社長へ

萬山登山開は、鐵道速成陳情書提出が行われ、香椎町長が野村社長へ提出された。萬山登山開は、鐵道速成陳情書提出が行われ、香椎町長が野村社長へ提出された。

# 商品陳列所開議

各種の提案と決議事項  
本農務課長談

商品陳列所開議は、各種の提案と決議事項が行われ、本農務課長は、商品陳列所開議に力を入れている。商品陳列所開議は、各種の提案と決議事項が行われ、本農務課長は、商品陳列所開議に力を入れている。

# 震災後の金融対策

南浦商議から金融業者の要望  
本農務課長談

震災後の金融対策は、南浦商議から金融業者の要望が行われ、本農務課長は、震災後の金融対策に力を入れている。震災後の金融対策は、南浦商議から金融業者の要望が行われ、本農務課長は、震災後の金融対策に力を入れている。

# 水産共進會

褒賞授與式  
二十五日舉行

水産共進會は、褒賞授與式が二十五日に行われ、本農務課長は、水産共進會に力を入れている。水産共進會は、褒賞授與式が二十五日に行われ、本農務課長は、水産共進會に力を入れている。

# 陳列大會

參觀記  
本農務課長談

陳列大會は、參觀記が行われ、本農務課長は、陳列大會に力を入れている。陳列大會は、參觀記が行われ、本農務課長は、陳列大會に力を入れている。

# 救済到着

第一回の救済到着  
本農務課長談

救済到着は、第一回の救済到着が行われ、本農務課長は、救済到着に力を入れている。救済到着は、第一回の救済到着が行われ、本農務課長は、救済到着に力を入れている。

# 水産共進會

廿日から開始  
本農務課長談

水産共進會は、廿日から開始が行われ、本農務課長は、水産共進會に力を入れている。水産共進會は、廿日から開始が行われ、本農務課長は、水産共進會に力を入れている。

# 地方集會

本農務課長談

地方集會は、本農務課長談が行われ、本農務課長は、地方集會に力を入れている。地方集會は、本農務課長談が行われ、本農務課長は、地方集會に力を入れている。



## 水治直

CHOKUJISUI

恐るべき傳染性ある  
トラホームのほせ目  
一番確實に卓効ある  
理想的の進歩的目薬

## 胃腸病科

石川醫院

親切 勉強

時天壽山

舖藥田藤

番一八長路廣

## 大邱物産貿易會社

最も進歩した粧室塗料  
凡有輸入品を凌駕する純國産

壁土・ポリライト

大邱物産貿易會社



### 病氣を怖れよ

#### 今が大事な時である

鼻が熱くなつても中耳炎のもと

鼻が熱くなつても中耳炎のもと。鼻の病は、中耳炎の元凶である。鼻の病は、中耳炎の元凶である。鼻の病は、中耳炎の元凶である。

### 食鹽水で含漱せよ

鼻の病は、中耳炎の元凶である。鼻の病は、中耳炎の元凶である。鼻の病は、中耳炎の元凶である。

### 具體的に決定した

#### 罹災鮮人の保護方法

精神的慰安娛樂にも

精神的慰安娛樂にも。精神的慰安娛樂にも。精神的慰安娛樂にも。

### 焦土の東京より

焦土の東京より。焦土の東京より。焦土の東京より。

### 上野驛



### 具體的に決定した

#### 地方が品薄で

木炭

木炭。木炭。木炭。

### 花の水上げ法

花の水上げ法。花の水上げ法。花の水上げ法。

### 靴下の編方の注意

#### 實用的毛糸の編み方

加藤ふじや

加藤ふじや。加藤ふじや。加藤ふじや。

### 生命を再得しました

生命を再得しました。生命を再得しました。生命を再得しました。

### 救護の手に引張風

救護の手に引張風。救護の手に引張風。救護の手に引張風。

### 通俗太閤記

#### 松林伯知講演

加藤由太郎速記

加藤由太郎速記。加藤由太郎速記。加藤由太郎速記。

### 水道管目

水道管目。水道管目。水道管目。

### 地震に備え

#### ぬ不安安全

消防

消防。消防。消防。

### 飲料

飲料。飲料。飲料。

### 汗野の

汗野の。汗野の。汗野の。

### 林業

#### 林業

林業。林業。林業。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

#### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。

### 三品

三品。三品。三品。







